

札幌市の教育

札幌市学校教育の重点は幼児児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校経営や教育課程の編成及び実施、生徒指導等に活かすために、特に重点となる施策や教育内容を示したものです。

具体的には、「知・徳・体の調和のとれた育ち（学ぶ力・豊かな心・健やかな体）」「札幌らしい特色ある学校教育」「子どもの発達への支援」「信頼される学校の創造」「教科等の枠組を越えた教育」について示しています。

全ての市立幼稚園・学校において校内研修会等で共通理解を図り、本重点を踏まえ、教職員が一丸となって創意工夫を凝らした特色ある教育課程の編成・実施及び学校運営等に取り組むことを期待します。

令和3年度 札幌市学校

令和3年度の包括的重点

- ・感染症対策を講じた学校教育の推進
- ・「小中一貫した教育」の推進（校種間連携）
- ・ICTを活用した教育の推進（情報教育）
→ P ③

知・徳・体の調和のとれた育ち

学ぶ力の育成 → P ⑤

豊かな心の育成 → P ⑨

健やかな体の育成 → P ⑬

札幌らしい特色ある学校教育

【雪】

【環境】 → P ⑰

【読書】



札幌市教育振興基本計画

目指す人間像 「自立した札幌人」

■ 未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する人

■ 心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人

■ ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

札幌市の学校教育が目指す子ども像

幼稚園段階（めばえる）

- 自分なりに考えながら物事をやり遂げる。
- 様々なことに興味・関心をもち、楽しんで取り組む。
- 先生や友達との関わりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- 友達のよさに気づき、一緒に楽しく活動する。
- 自然と触れ合うなど身近な環境に親しみ、興味や関心をもつ。
- 発見を楽しんだり、考えたりして生活に取り入れる。

《札幌市の学校教育における子ども観・教育観》

子どもは、どの子もよさや可能性をもっています。
 他者との比較ではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切です。
 子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを伝え、
 子どもの成長を促していきます。

※本書では、「幼保連携型認定こども園」は幼稚園の段階に、また、「中等教育学校」の前期課程は中学校の段階に、後期課程は高等学校の段階に、それぞれ相当するものとします。
 ※特別支援学校においては、年齢に準じた段階や児童生徒一人一人の発達の状況や特性を考慮しながら、目指す子どもの姿を設定するものとします。

教育の重点

※本冊子は札幌市公式ホームページでも閲覧できます。

子どもの
発達への支援

特別な配慮を必要とする子どもへの教育

- 特別支援教育
→ P 19
- 不登校支援
- 帰国・外国人
児童生徒
→ P 20



信頼される
学校の創造

- 家庭や地域とともに
進める学校づくり
→ P 21
- 教員の資質・能力の
向上 → P 22
- 安全教育
→ P 23



教科等の枠組を
越えた教育

- 進路探究学習
(キャリア教育)
→ P 24
- 人間尊重の教育
→ P 25
- 国際理解教育
→ P 26



小学校段階 (そだつ)

- 新たな課題に興味・関心をもち、進んで考えたり工夫したりする。
- 自分の目標をもち、明るく前向きな気持ちで行動する。
- 思いやりの心をもち、相手の気持ちや立場を理解する。
- 互いに認め合い、励まし合ったり助け合ったりする。
- 学校や地域での様々な活動を通して、自分の住んでいる地域や札幌のよさに気付く。
- 郷土や我が国の伝統・文化に触れるとともに、世界の人々や文化に興味・関心をもつ。

中学校段階 (のびる)

- 自ら課題に気付き、その解決に向けて必要な情報を集め、考えたり表現したりする。
- 自分の目標に向かって、希望と勇気をいただき、強い意志をもって行動する。
- 互いの個性や立場を尊重し、様々な見方や考え方について理解する。
- 友情の尊さを理解し、信頼し合う中で、互いに励まし合ったり高め合ったりする。
- 広い視野から札幌の特色を理解し、社会の一員としての自覚をもって行動する。
- 郷土や我が国、世界の伝統・文化を理解するとともに、国際的な視野から物事を考える。

高等学校段階 (ひらく)

- 未来を切り拓くため、自らの生き方や在り方について、広い視野から考えたり、表現したりする。
- よりよい社会の実現に向けて、主体的に判断し、行動する。
- 自他の人格を尊重し、互いの考えや主張を理解するとともに、義務と責任を果たす。
- 互いの立場や意見を尊重し、高め合ったり支え合ったりする。
- ふるさと札幌の伝統・文化に対する理解を深め、社会の一員として継承・発展に努める。
- 郷土や我が国、世界の伝統・文化を尊重するとともに、国際的な視野に立って学び続ける。